

2018.05.18

農協組織における実践的な事故防止対策

～JAグループ大分労働保険事務組合の取り組みを中心に～



JA大分中央会 県域担い手サポートセンター
兼高 秀樹

1. 大分県の概要
2. 県域担い手サポートセンターの発足
3. JAグループ大分労働保険事務組合の設置
4. GAPを活用した農作業安全の取組み
5. 今後の取組み

1. 大分県の概要



○県下JA数：6JA

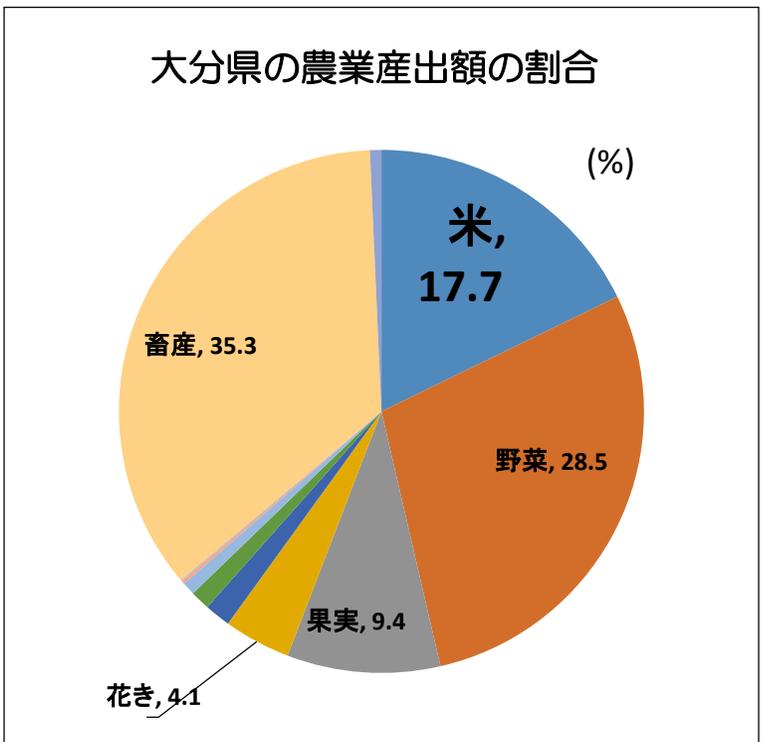
○農協組合員数：128,022人（うち正組合員64,982人）※H29.3月末

○大分県の農業の特徴

- ・ 標高0mから1,000m近くまで耕地が分布。
- ・ 耕地面積の約70%が中山間地域に位置する起伏の多い地勢。
- ・ 米を中心に野菜、果樹等の園芸品目や肉用牛等の畜産など、多様な農業が営まれている。
- ・ 1経営あたりの経営耕地面積が比較的狭く、5ha以上の農業経営体数の割合は4.3%。

農業産出額の構成比

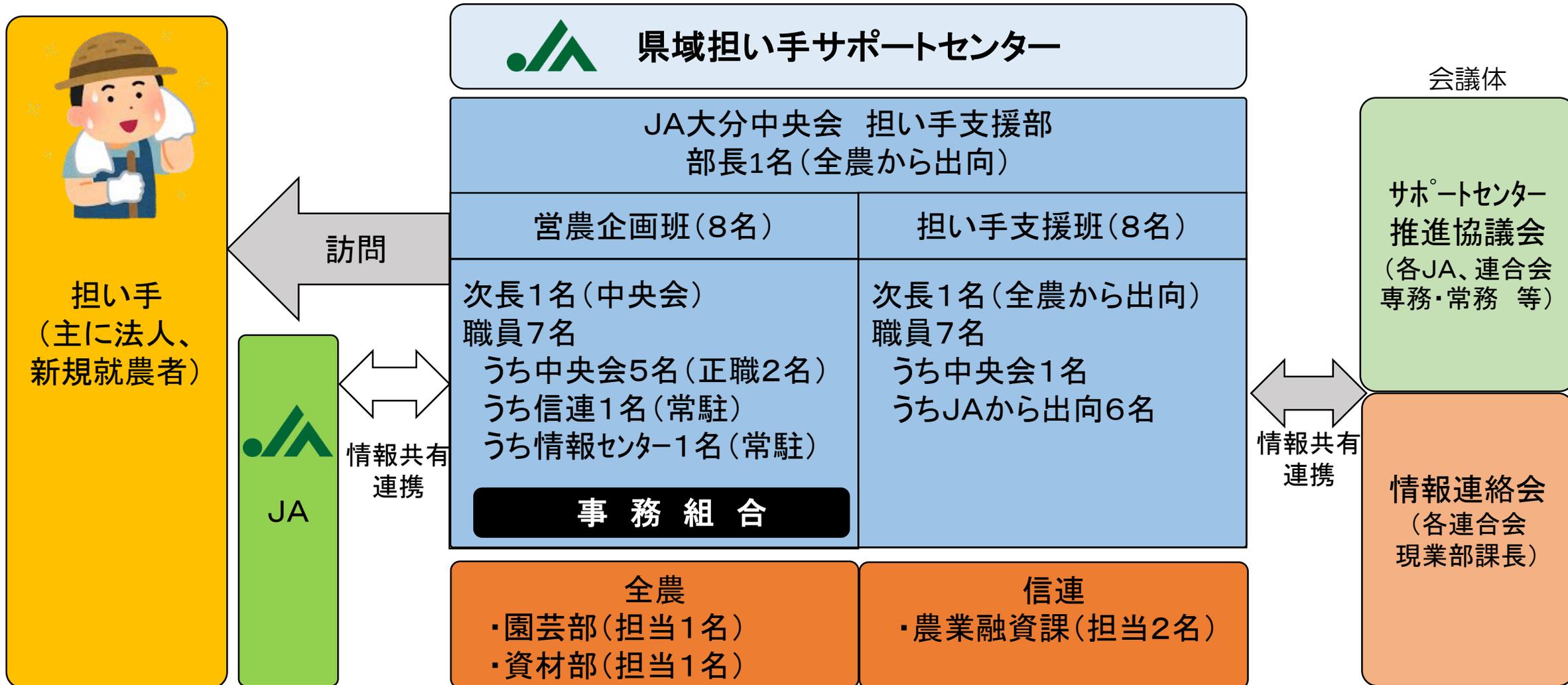
	平成28年
農業産出額(億円)	1,339
耕種(%)	63.9
米	17.7
野菜	28.5
果実	9.4
花き	4.1
工芸農作物	1.6
いも類	1.2
その他作物	0.8
雑穀・豆類	0.2
麦類	0.1
畜産	35.3
加工農産物	0.7



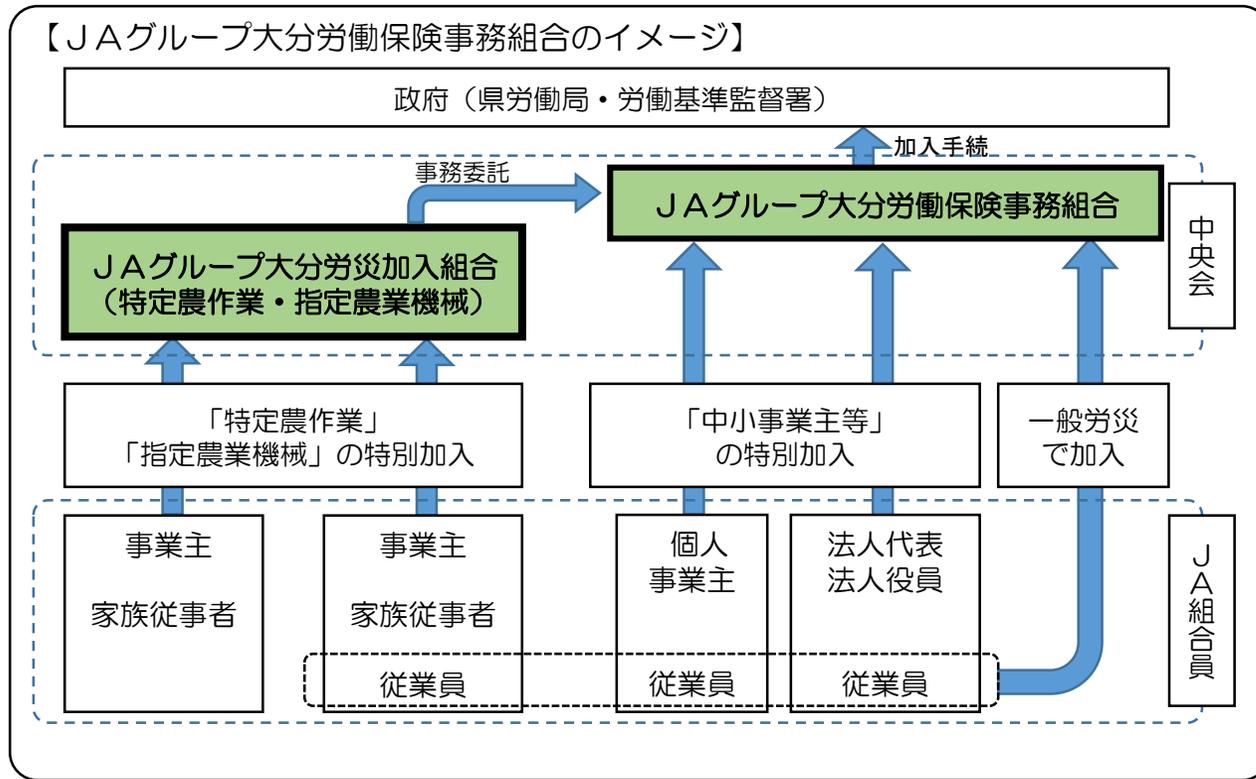
資料:農林水産省「生産農業所得統計」

2. 県域担い手サポートセンターの発足

- ・平成27年4月1日発足
- ・平成28年4月1日より、JAからの出向受入。



3. JAグループ大分労働保険事務組合の概要



【労災保険加入者数の推移】

年度別	一般加入		特別加入				加入者合計	
			中小事業主等		特定農作業	指定農機		
	事業主数	従業員数	事業主数	加入者数	加入者数	加入者数	事業主数	加入者数
28年度末	28	177	4	8	34	83	28	302
29年度末	55	313	9	17	53	156	55	539
30年度期首	61	354	9	17	60	230	61	661

1. 設立の経緯

- 大分県の農作業死亡事故件数は、年間平均約8～9名。
- 農家組合員等に対して行ったアンケートによると、回答者の約1割が概ね過去3年以内に農作業事故を起こし、約6割が労災保険への加入を希望しているとの結果。
- 今後、農業者の高齢化や、農業機械の大型化に伴い農作業事故が増加することも予測され、JAグループ大分として県内の農家組合員が公的保険である労災保険に加入できる体制を整備するため、労働保険事務組合を中央会が母体団体として設置。平成28年9月に認可。
- 事務組合を中央会に設置して、農業者への労務指導を行う。

2. 主な運営方法

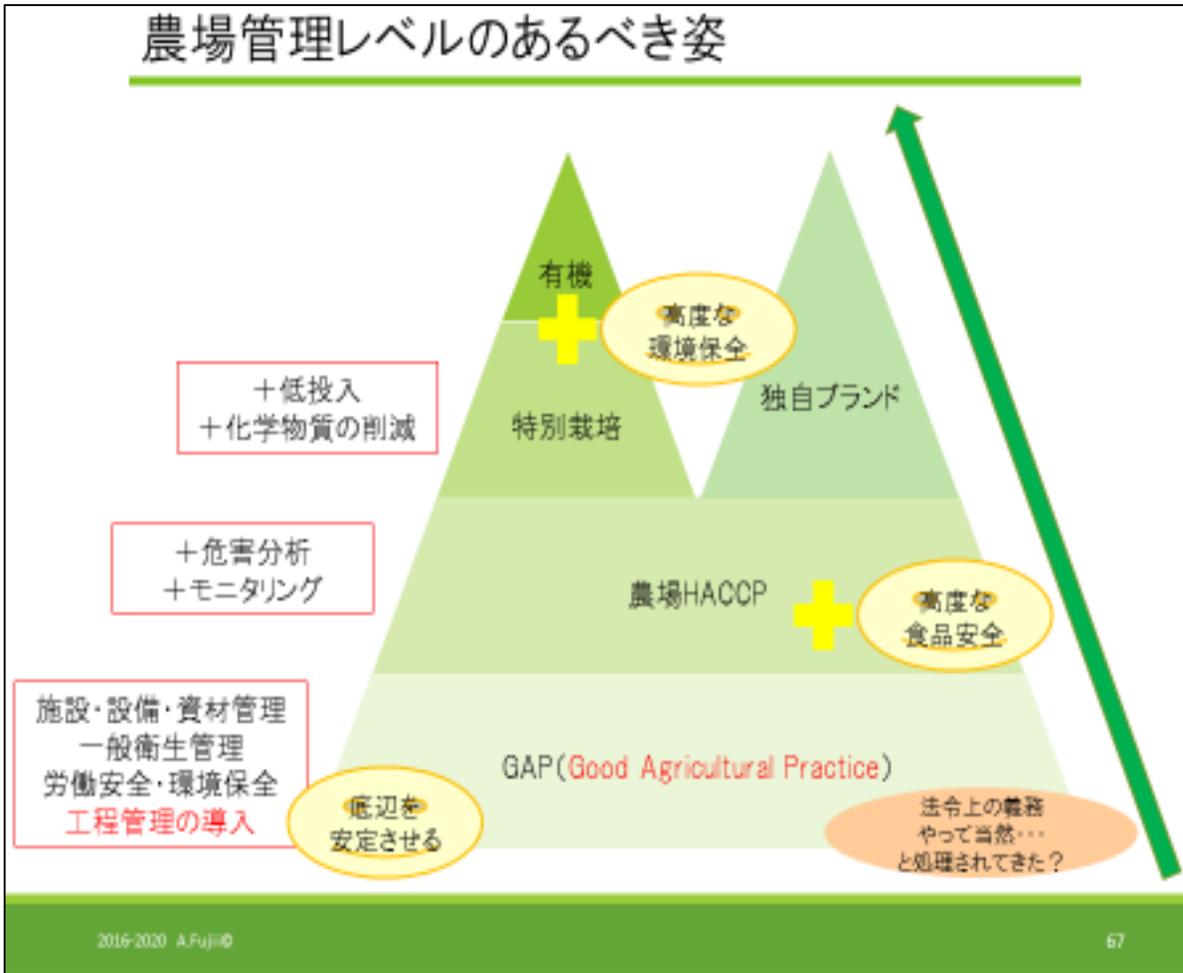
- 事務組合を効率的かつ効果的に運営するために、各JAに労災保険に関する受付窓口を設置。保険料等の取扱いは貯金引落しで徴収し、現金の取扱いはしない。
- 広く加入してもらうため、加入者から徴収する事務委託手数料を比較的低額に設定（保険料の10%）。その代わりに、JAは事務組合に賛助金を支払う。1JAあたり年間12万円（県域JAの場合は24万円）。
- 事務組合の担当職員は、中央会正職員1名（兼任）と、専任職員（有期契約）1名を配置。中央会正職員は管理全般と農家への説明等に対応。専任職員は、労災システム入力や監督署提出書類の作成等を担当。
- 労災保険の給付手続きサポート等のため、社労士と顧問契約。

(参考①) 当事務組合の労災保険請求事案

平成28年9月の認可から、当事務組合の加入者から業務災害が12件。うち10件労災保険の請求を行った。2件は申請を取り下げ。

年齢(当時)	性別	被災者区分	災害の種類	発生時期	傷病の状態	場所	品目	災害の発生状況	労災保険	防げなかったのか？
65	女	従業員	業務災害	29.3	右橈骨遠位端骨折(手術・入院3週間)	段々畑	柑橘	収穫作業中、段々畑の約2M下の段に転落。崖部分に、石を積んでいるが、草が生えて見えにくくなっていました。	療養 休業	事前に草を刈れば防げた可能性。
67	男	従業員	業務災害	29.6	左手親指マムシ咬傷(入院1週間)	畦	米	畦畔の草刈作業中に、枯れ草の塊を手で払いのけようとしたところ、枯れ草の中にマムシがいて左手親指を噛まれた。	療養	皮手袋装着で防げた可能性。
51	男	指定農機	業務災害	29.7	熱中症(入院3週間)	畦	米 大豆	畦畔の草刈作業が終了して帰宅したが、数時間後に気分が悪くなり病院へいったところ熱中症と診断された。	療養	予防知識や作業時間管理により防げた可能性。
33	男	従業員	業務災害	29.7	左目打撲、細胞剥離	水田	WCS	水田にて、WSCの田植え作業中、田植機の上で肥料を入れ替えている際に、けん引用ロープに足が絡まり転倒し、肥料用ボックスで左目を強打。	療養	作業方法は適正だったのか。
27	男	従業員	業務災害	29.8	左目虹彩裂傷(手術・入院1週間)	水田	米 WCS	水田周辺を携帯式動力草刈機により作業をしている最中、回転刃で小石を撥ね左眼を直撃した。	療養	飛散防護カバーを取り外さず、フェイスガード着用すれば防げた。
68	男	従業員	業務災害	29.9	右足じん帯損傷(入院)	畦畔	米	畦畔を草刈機により、草刈作業中にバランスを崩し、畦から下の田に転落(1.2m)し右足靭帯を損傷した。	療養	作業着、作業靴は適切であったか。危ない箇所は手刈りですべき。
66	男	特定農作業	業務災害	29.11	左足捻挫	ハウス内	柑橘	ハウス内で、三脚(高さ2m)に乗り、枝の管理作業中、三脚を降りて移動する際、地面のワイヤーに足がかかり、転倒し左足を捻挫した。	療養 休業	作業環境の改善で防げた可能性。
62	男	特定農作業	業務災害	29.12	左足捻挫	畦畔	米	トラクターにより耕起作業中、圃場内でトラクターから降車(約50cmから)した際に、地面が草で覆われて段差がわからなかったため、着地の際に左足首を捻挫した。	療養	草で覆われているところで降車しなければ防げた可能性。
65	女	従業員	業務災害	30.3	右足首骨折(手術・入院中)	集荷場	花	集荷場でトラックから収穫した菊を荷降ろしし、集荷場に運ぶ途中、集荷場の入り口の段差(約10cm)に足が引っ掛かり転倒し、右足首を骨折した。	療養 休業	運ぶ途中の段差をなくせば防げた可能性。
54	男	指定農機	業務災害	30.4	右手 人差し指、中指、薬指裂傷	田	米	田でライムソーワを装着したトラクターによる肥料の散布作業中、ライムソーワ内に残った肥料を手で押し出したところ、回転する金具に右手が巻き込まれたので力ずくで引き抜いた際に、右手の人差し指、中指、薬指を裂傷した。	療養	回転中は手を入れない。取扱説明書を読み、守っていれば防げた。

4. GAPを活用した農作業安全の取組み



「GAPで取組む農作業安全講習会」資料から
出典:安心農業株式会社・藤井淳生氏

おいしい農産物を作る栽培技術等は
視察や学習会等で勉強し実践してい
る。(おそらく世界一)

それなら教えてくれず、おろ
活用し確認を。

○その事故は防げなかったのか

- 本県事務組合に委託、加入している農場で発生した事故を見ると、「その事故は防げなかったのか」と思う事案が多い。
- 事故調査訪問時には「いつもはこんなことをしないのに」「気を付けて作業していたが」と言う方がほとんど。
- 農業者に「危ないから草刈機の飛散防止カバーを外さないください。取扱説明書読んでください。タオルを首にかけないください。…」と言ってもほとんど改善が見込めない。
- 正しい農業の仕方を継続して行うために、GAP（認証）の取組みを勧めている。
- GAPの活用を普及するため、毎年2回程度、「GAPで取組む農作業安全講習会」を開催し、安心農業(株)の藤井淳生氏にGAP講習を依頼。その後、消防署による応急処置の講習、県警による農業用機械の公道での事故防止について講習を行っている。

【JGAP 管理点14.1・必須（抜粋）】

① 圃場、作業道、倉庫・農産物取扱い施設及びその敷地等における危険な場所、危険な作業に関するリスク評価を年1回以上実施し、事故やけがを防止する対策を文書化している。リスク評価とその対策は、自分の農場及び同業者で発生した事故やけがの情報や自分の農場で発生したヒヤリハットの情報を参考にしている。

【JGAP 管理点18.6・重要】

①機械・設備の使用に際しては、取扱説明書やメカの指導に従って使用している。

② 安全性を損なう改造を実施していない。

③ 購入時には機械・設備の安全性の評価を行っている。

【JGAP 管理点14.5・必須（抜粋）】

法令において労働災害の補償に関する保険が存在し、農場がその保険の強制加入の条件に相当する場合にはその保険に加入している。

できているかをJGAP指導員（JA・県職員）、内部監査員（JA職員）、審査員が継続的にチェック。できていなければ、改善活動！

(参考②)GAPで取組む農作業安全講習会

GAPで取組む農作業安全講習会 次第

日時：平成 29 年 12 月 5 日 (火) |
会場：JAおおいた
杵築柑橘選果場 2 階

1. 挨拶

2. 講習内容

(1) GAPで取組む農作業安全 ～「当り前の日常」のために～

講師：安心農業株式会社 代表取締役社長 藤井 淳生 氏

(2) 万が一の応急処置等について

講師：杵築消防署 小隊長代理 [] 氏
消防隊員 [] 氏

(3) 農作業に伴う事故防止について ・ ・ 資料No.3

講師：杵築日出警察署 交通課 課長 [] 氏

(4) JAグループ大分からのお知らせ

・ 労災保険について

3. 閉会

※受講証明が必要な方は、後日JAを通じ送付いたします。
JAおおいた東部事業部までご連絡ください。



2017年度
JA大分中央会・講習会

GAPで取組む農作業安全
当り前の日常のために

2017年 12月 4・5日
安心農業(株) 藤井 淳生

未然
防止



手足(指)切断 応急処置

応急手当

指

1. 傷口に清潔なガーゼをあて、その上から包帯を強めに巻いて圧迫止血。
2. 包帯の根元をひもで縛って固定。
3. 切断された指をガーゼでくるみビニール袋に密閉。氷水入りの袋や容器に入れて、傷病者とともに医療機関へ搬送。

※切断指を直接水に入れて冷やすのは禁物。細胞が破壊され再接着できなくなります。



事後
対応



死亡事故が多い、
公道での農機事故



安全確認と予防対策で
農機の死亡事故を防ごう!

資料No.3
JAおおいた広報誌
JOIN29年11月号

未然
防止

(参考③) GAP を利用し整理整頓



Before



After



農薬を探す時間が減り
作業時間にゆとりが
できます。

ごちゃごちゃしてると
つまづきの原因に！

出典: JAおおいたGAP研究会

5. 今後の取り組み

(1) 労災保険の加入促進を通じた訪問活動の強化

- 雇用しているにも関わらず、加入していない場合が多い。（任意適用を含め）
- 特別加入制度の周知並びに加入促進。（加入時健診を理由に加入しない場合がある）
- 地球温暖化による気温上昇や高齢化により増加が予想される熱中症。（うちわ訪問配布）
- 事務組合で把握する農作業事故の情報を労災加入者に周知し、予防に活用してもらう。

(2) 訪問時に労務管理の基本を徹底

- 労災保険の説明のために訪問して話をすると、労務管理の改善が必要な場合が多い。

例えば、

- ①労働者の出退勤時間の把握をしていない。
 - ②労働者名簿を作成していない。
 - ③採用時に労働条件の明示をしていない。労働契約書がない。
 - ④賃金の支払いは田植作業終了時等、2カ月分まとめて支払っている。
 - ⑤最低賃金を下回っている。
- 労災加入に併せて、労務の基本的な内容については代表者等と一緒に改善活動を実施。
 - 就業規則等の作成を希望する場合、顧問社労士と連携し作成支援を実施。

(3) 訪問や研修を通じGAPを推進

- 農作業安全に限らず、農業経営の基本的な事項の確認はGAPを活用することを推奨。
- 農業経営リスク（残留農薬、農作業事故、環境保全）を低減することで持続可能な経営に。

○農業経営を行う上で、正しい知識を習得することは、農作業安全にもつながる。

GAPを通じ農業の仕方を確認！

